

■山水ノ間

禪の教えとともに中国から伝わった水墨山水。俗世の煩悩、しがらみを離れた心穏やかな境地が風景として表現されています。一見どれもよく似た画面ですが、山肌、樹木、滝、楼閣、雪など、細部の描かれ方は実にさまざまです。大気の湿り具合や風の音など、視覚以外の五感でも山水を感じてみましょう。

■武家ノ間

古くから統治者の支配権、武威の象徴とされた馬と鷹。武家にとり最も重要な動物であり、その雄姿を描く絵画類は必須の調度となりました。「弱肉強食」の精神性を養い、「盛者必衰」の理をさとるため、また戦場や狩り場で行動を共にした愛馬、愛鷹の姿を記憶に留めるために描かれたのでしょう。

■花鳥ノ間

屏風絵の粹、それはやはり花鳥画でしょう。狩野派、長谷川派、雲谷派などの絵師が、匂い立つほどの豪華絢爛な大画面を描きました。金地に極彩色を厚塗りした派手さにまず圧倒されますが、金地と水墨という渋い画面もあり、季節の草花や空間構成など、作品ごとの表現内容は実に変化に富んでいます。

■源氏ノ間

千年以上も語り継がれ、美術に豊かなイメージを提供してきた王朝文学の傑作『源氏物語』。「若紫」の垣間見、「紅葉賀」の青貝波、「濤標」の住吉浜などはよく知られた名場面です。折々の風物にからめた恋の歌を交わしながら物語は進みます。さりげない四季の表現も源氏絵を見る重要なポイントです。